研究活動報告

第21回国際老年学会（アメリカ・サンフランシスコ）

第21回国際老年学会（The 21st IAGG World Congress of Gerontology & Geriatrics, San Francisco, USA）が，アメリカ・サンフランシスコ市にある複合施設モスコーニ・センターで開催された．期間は７月23日から27日までであり，テーマは「グローバルエイジングと健康：研究・政策・実践をつなぐ」であった．学会では，基調講演，シンポジウム，特定テーマセッション，口頭セッション，ポスターセッション等が行われ，アメリカをはじめ世界各国・地域からの参加者が活発な議論を行った．当研究所からは，小島克久情報調査分析部長が参加し，“Determinants of Caregiving by Children to the Frail Elderly Living Alone in Japan, Korea and Taiwan”（金貞任と連名・ポスターセッション）を報告した．

なお，本大会は４年に１度行われており，次回は2021年にブエノスアイレス（アルゼンチン）で開催される予定である．（小島克久　記）

人口統計のハーモナイゼーションに関するセミナー

社人研一般会計プロジェクト「人口と社会保障における統計の新たなトレンドに関する研究」では，2017年８月10日，米国ミネソタ大学人口センターのマチュー・ソベック（Matthew Sobek）博士の来日の機会を生かし，一橋大学と共同で，「IPUMS センサスマイクロデータにおける世帯・家族構造のハーモナイゼーションについて」と題する研究会を行った．IPUMS については，すでに2014年11月10日に，ロバート・マッケイ教授による特別講演会を社人研にて行っているが，今回は特に，配偶関係，世帯構成の標準化・共通分類の手法について詳しい説明が行われた．未だ日本の国勢調査データは IPUMS に掲載されておらず，日本の研究者は他国のセンサスデータを使うだけであるが，そのデータベースは日々拡充されている．（林　玲子　記）

ホーチミン高齢化マルチステークホルダー・フォーラム

2017年８月15日（火），ベトナム・ホーチミンで，「持続可能な成長のための健康長寿社会への投資」と題するマルチステークホルダー・フォーラムが APEC 第３回高級実務者会合関連イベントとして開催され，筆者は第３セッション「ケア人材の国境を越えた移動と能力開発に関する地域アプローチ」のモデレーターとして参加した．このフォーラムは，日本政府，ベトナム政府，人口と開発に関するアジア議員フォーラム（AFPPD），東アジア・ASEAN 経済研究センター（ERIA），ヘルプ・エイジ・インターナショナル，日本国際交流センター（JCIE），日本貿易振興機構（JETRO）の共催によるもので，今後進行する人口高齢化に対して APEC 地域，アジア諸国でどのように対応するか，特に介護システムにおける地域の役割，ケア人材の国境を越えた移動と能力開発について，参加各国の報告をベースに議論が進められた．ケア人材については，インドネシア，スリランカ，フィリピン，ベトナムの事例が紹介され，いずれも介護人材育成制度は整いつつあるものの，量・質ともに不足し